

2020年2月5日

各 位

会 社 名 AGC 株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 島村琢哉
(コード番号 5201 東証第1部)
問合せ先 広報・IR部長 玉城和美
(TEL. 03-3218-5603)

中期経営計画の進捗状況と更なる成長に向けた取り組みについて

AGC株式会社(本社:東京、社長:島村琢哉)は、2018年2月に策定した中期経営計画 **AGC plus-2020** の進捗状況および更なる成長に向けた取り組みについて、以下の通りお知らせいたします。

1. 中期経営計画 **AGC plus-2020** の進捗状況

当社は「2025年のありたい姿」とその実現のための長期経営戦略を以下の通り定めています。

“2025年のありたい姿” (2016年策定)

コア事業が確固たる収益基盤となり、
戦略事業が成長エンジンとして一層の収益拡大を牽引する、
高収益のグローバルな優良素材メーカーとなる



2018年~2020年までの3か年を「2025年のありたい姿 実現のための礎を築く期間」と位置付け、2018年2月に **AGC plus-2020** を策定し、主要課題を以下の通り決めました。

AGC plus-2020 の主要課題

- 市況変動に強い高付加価値事業を伸ばす
- 戦略事業の成長戦略を推進する
- 成長地域・勝てる地域へ経営資源を集中する
- 戦略的なM&Aにより持続的成長を図る

中期経営計画 **AGC plus-2020** の2年目にあたる2019年は、世界的な景気減速の影響を受けたものの、各部門で主要課題に則した事業運営を行った結果、売上高は1兆5,180億円と前年度1兆5,229億円に対してほぼ横ばいとなりました。営業利益は製品市況の悪化や生産トラブルの影響などにより、1,016億円と前年度1,206億円に対して減益となりましたが、戦略事業は順調に拡大しています。一方、北米自動車用ガラス事業における減損損失計上などに伴い、その他収支が悪化したことにより、親会社の所有者に帰属する当期純利益は444億円と前年度896億円に対して減益となり、ROEは3.9%と前年度7.7%から悪化しました。

また将来の成長に向け、自動車用ガラスアンテナ開発拠点の新設（欧州）や大型・複雑形状の車載用カバーガラス製造拠点の新設（中国）、EUV露光用フォトマスクブランクス供給体制の増強（日本）、バイオ医薬品生産能力の増強（米国、欧州）等の投資および、米国Taconic社のAdvanced Dielectric部門グローバルオペレーションの買収を決定・実施しました。

中期経営計画 **AGC plus-2020** の最終年度となる2020年は、世界的な景気減速の影響などにより、営業利益およびROEは当初目標に対して未達となりますが、D/E比率0.5以下を維持しながら積極的な投資を実施したことにより、戦略事業は引き続き成長する見込みです。またこれまでに実施した投資の効果発現などにより増益基調に戻すとともに、引き続き将来の成長実現のための投資を積極的に行います。

	2020年		2025年目標
	当初目標	見込	
営業利益	1,600億円以上	1,200億円	2,292億円以上 (過去最高益更新)
ROE	8%以上	6.0%	10%以上
戦略事業 利益貢献比率	25%以上	29%	40%以上
D/E	0.5以下	0.5以下	0.5以下

事業セグメント	主な投資（利益発現見込時期）
ガラス	【建築用ガラス】 ・欧州の設備改修による生産性、燃費向上（2020年） ・ブラジル新窯建設（2020年） 【自動車用ガラス】 ・中国車載用カバーガラス新拠点建設（2022年）
電子	【ディスプレイ】 ・中国G11サイズ能力増強（2020年） 【電子部材】 ・日本EUV露光用フォトマスクブランクス能力増強（2019年以降順次増強）

化学品	<p>【基礎化学品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア塩化ビニル樹脂能力増強（2021年） ・タイ電解能力増強（2022年） <p>【フッ素化学品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本フッ素製品能力増強（2021年） <p>【ライフサイエンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本GMP対応合成医薬品能力増強（2020年） ・米国バイオ医薬品能力増強（2020年）
-----	--

当社は経営財務目標の1つにROEを掲げていますが、各事業の運営にあたってはROCE（営業資産利益率）およびEBITDA（利払い前・税引き前・減価償却前利益）を経営指標として使用しています。ROEの目標である8.0%達成には全社ROCEとして概ね10.0%の達成が必要で、この実現に向け建築用ガラス事業、自動車用ガラス事業やディスプレイ用ガラス事業などについては、収益性および資産効率の改善に努めています。また電子部材事業やライフサイエンス、クロールアルカリ・ウレタン、フッ素・スペシャリティなど化学品事業については、現状の高い資産効率を維持・向上させつつ、積極的な投資により事業規模を拡大し、収益の拡大を目指します。



株主還元方針については、「現在の1株あたり年間配当額以上の継続を基本に、自社株取得を含めた連結総還元性向50%以上を継続する」ことを掲げています。この方針に基づき、2017年より4期連続増配を予定、2017年および2018年に自己株式取得を実施しています。

また政策保有株式売却により得たキャッシュを、戦略事業への積極投資や株主還元に充当しています。

2. 「2025年のありたい姿」の実現に向けた取り組み

AGCグループは「2025年のありたい姿」として、「コア事業が確固たる収益基盤となり、戦略事業が成長エンジンとして一層の収益拡大を牽引する、高収益のグローバルな優良素材メーカー」を目指しています。

コア事業および戦略事業における主な取り組みは以下の通りです。

【コア事業】

建築用ガラス	国内建築用ガラス市場の縮小に対応するため、セントラル硝子(株)と事業統合の検討を開始（2020年末の事業統合を目指す）
自動車用ガラス	各地域の状況に応じ、高機能製品への対応と生産効率改善を実施 【日本】 生産効率の改善やコスト削減を進め、高機能製品を拡販 【アジア】 需要変動に応じた柔軟な稼働体制を継続 【欧州】 需要動向を見極めて新設備へシフトすることで、高機能製品への対応と生産効率を改善 【北米】 シェア拡大は狙わず、生産設備の合理化やコスト削減などの構造改善を実施
ディスプレイ	中国でのG11サイズ需要増加に対し、素板製造設備は増やさずに研磨能力増強で対応
基礎化学品	今後も堅調な需要増が見込め、域内生産能力が不足する東南アジアにおいて積極的に能力を増強
フッ素化学品	半導体・次世代高速通信・輸送機器分野などでの需要増に対応し、原料を含む様々な製品群で段階的に設備能力を増強

【戦略事業】

モビリティ	各種交通システムを取り巻く環境・インフラの変化を機会と捉え、車載ディスプレイ用カバーガラスの採用拡大に対応し、大型・複雑形状のカバーガラス生産拠点を中国に新設（量産開始：2022年）
エレクトロニクス	IoTの進展や半導体の高度化に伴う半導体市場の拡大に対応し、ハイエンド消耗材を中心に売り上げを拡大 今後さらに市場が伸長するEUVマスクブランクスの上を拡大（2025年目標：売上高400億円以上・シェア50%） プリント基板材料であるCCL（銅張積層板）やガラスアンテナなど、様々な次世代高速通信関連の事業基盤の拡大
ライフサイエンス	買収や積極的な能力増強により、市場成長率を上回る高い成長を目指す当初目標の2025年売上高1,000億円は前倒しで達成する見込み

以上に掲げた施策の実行により、中期経営計画 **AGC plus-2020** の目標に掲げた、戦略事業の一層の収益拡大を目指します。

戦略事業の売上高推移



AGCグループは、持続的成長により「2025年のありたい姿」を実現し、全てのステークホルダーに価値をプラスします。

以 上